

2017 年度「研究者の横顔」 石井 源一郎先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

大学院生の時にかん組織を顕微鏡で観察し、その複雑性に驚きました。かん組織は、かん細胞のみならず多種類の非かん細胞が混ざっています。その複雑性を解き明かすことが、かん生物像の本質につながるであろうと考え、研究を開始しました。

2. 助成研究の内容紹介

顕微鏡でかん組織を観察していると、かん細胞の周りには、例外なく紡錘形の非かん細胞（線維芽細胞）が纏わりついています。そこで、かん細胞は、かん細胞のみでは生存できず、線維芽細胞の力を借りて生存しているのでは、と考えました。周りの線維芽細胞を撲滅することにより、かん細胞が生存できる環境を破壊する、といった発想で研究を進めています。

3. 2の将来に繋がる結果予想

これまでの治療法の大半は、かん細胞のみを攻撃する、といったものでした。周りの細胞をも攻撃することにより、効果的な治療法の開発に繋がる可能性があります。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

このたびは RFLJ の研究助成に採択していただきまして有難うございます。

御支援していただく研究が、かん患者さんのお役に立てる日が来るよう努めてまいりますので、よろしくお願ひ致します。